

道徳の時間で活用する ～規則の尊重～

山陽小野田市立小野田小学校 磯部 宏子

1 本場面におけるポイント

● 読み物資料として「私たちの道徳」3・4年 P124～127

「雨のバス停留所で」の話から、登場人物の思いを話し合い、きまりがあるわけやそれを守る意味を考える。

● 振り返り、終末の場面で「私たちの道徳」3・4年 P118

終末で、どんなに大変な状況でもきまりを守る日本人の姿を見て、自分のこととして受け止め、「私たちの道徳」に書き込みをする。そして、これからの生き方についての思いや課題意識をもつ。

2 授業の実際

1 主題名 きまりは何のために「雨のバス停留所で」

2 ねらい

社会のきまりやマナーが必要なわけを考え、進んできまりを守ろうとする態度を養う。

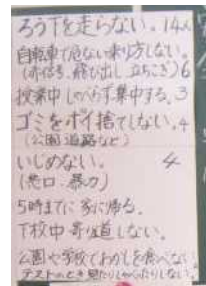
3 展開

(1) 導入 家庭や地域などにはどんなきまりがあるか(事前アンケートの結果紹介)。

T:「ろうかを走らない。自転車で危険な乗り方をしない。授業中しゃべらないで集中する。テストを見ない。ゴミをポイ捨てしない。いじめない(悪口、暴力)。決められた時刻までに帰る。」など、たくさんのきまりがあるが、何のためにあるのだろう。

□ 指導上の留意点

きまりやマナーについて事前にアンケートをとり、集計をして書き出すと自分たちのこととして意識することができる。回答の大部分は、自分たちが守ることができていないきまりであった。この結果を板書に残しておくことで、振り返りにも生かすことができる。



(2) 展開 資料「雨のバス停留所で」を読んで話し合う。

T: よし子は どうして先頭に並んだのか。

C: 早く乗って席に座りたい。

C: おみやげがぬれてしまう。

T: お母さんに引っぱられて後ろに並んだよし子は、どんなことを考えているか。

C: お母さんは、どうして私を引っぱったのだろう。

C: どうしてみんな早く乗ってくれないの、私も早く乗りたい。

T: 窓の外をじっと見つめるお母さんは、どのようなことを考えているか。

C: なぜ一番に乗ろうとしたのかしら。みんな並んでいたのに順番ぬかしをして。

C: みんなに迷惑をかけて・・・きまりが守れていない。

C: 自分のことしか考えられないなんて・・・。悲しい。

C: 順番ぬかしをしたことが悪いことだと自分で気付いてほしい。

T: 自分を振り返って書こう(ワークシート)。

C: いけないとわかっているけどついうろかを走ってしまう。だから・・・。

- C: わかっているけど、約束の時間を過ぎても家に帰らないことがある。
- T: きまりは何のためにあるのだろうか。きまりを守るとどうなるか。
- C: 人のためになりそれが自分にも返ってくる。人も自分も、みんなが楽しく暮らせる。
- C: 社会がよくなる。戦争もなくなり、平和な世の中になる。
- C: けがもなく安全で、安心して生活ができる。
- C: 気持ちがよい（自分の心がすっきりする。）。

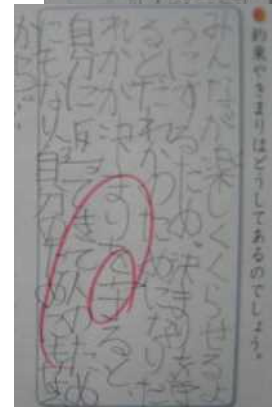
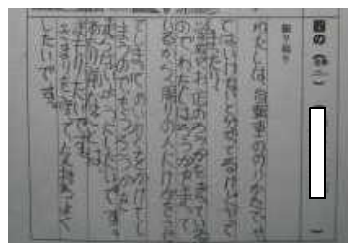
□ 指導上の留意点

前半部分は、雨のため自分のことしか考えることができないよし子の思いを中心に話し合う。ワークシートのふき出しにはどちらでも書けるようにしたところ、だまって窓の外を見つめるお母さんの思いを書いている児童が多かったので、そちらを中心に話し合った。挿絵の母とよし子の表情がよく分かるように、顔だけ拡大して提示した。

(3) 終末 震災の時にきまりを守っている様子を紹介する。

阪神淡路大震災で並んでいる避難所の人たちの写真 (P118) を見て、きまりはどうしてあるのか書き込みをする。

その他にも、東日本大震災のときの、コンビニに並ぶ人たち、食い逃げをしない日本人などを紹介した。自分のことだけ考えるのではなく、お互いを思いやって行動することで、みんなが気持ちよく生活できることを再認識した。



板書

導入で使ったアンケート結果

どんな状況でもきまりを守る日本人



3 実践を振り返って

読み物資料と一緒にP118やP128~129は、終末で効果的に使えそうである。しかし、従来のワークシートと併用すると時間的に厳しくなる。P118に書き込みをするのであればワークシートの見直しも必要である。しかし、読み物資料で話し合った後にP118の写真を見ると心が温かくなり、日本人としての誇りをもつこともできる。

さらに、学活や日常生活等でP128~129の「みんなが守らなくてはならないきまりがある」を扱うと、より実践化につながると思われる。